

# ★川ごみ調査結果シート<乞田川>

よみがえれ、大栗川を楽しむ会

分類項目		数量	備考
<b>■ 容器・包装ごみ</b>			
飲料	○飲料缶(アルミ、スチール)	90	&「フタ」5
	○ビン		
	○ペットボトル	5	
	○ペットボトルのキャップのみ	1	
袋	○レジ袋	41	
	○プラ袋(レジ袋以外、菓子袋も含め)すべて	71	
その他	○飲食系プラ容器(弁当・トレイ・飲料カップなど)すべて	8	
	○紙パック・トロ箱、その他の容器包装		
	○混在ごみ(複数の容器・包装類をレジ袋等に詰め込んだ不法投棄ごみ)		
<b>■ 産業系ごみ</b>			
	○土のう袋・フレコンバッグ	4	「土のう袋」
	○ブルーシート・農業用マルチシート		
	○鉄パイプ、産業系金属類	3	「金属棒」
	○その他	2	「塩ビ管」1、「ゴムホース」1
<b>■ 製品ごみ</b>			
	○タバコの吸い殻	7	&「ライター」1
	○おもちゃ・靴・CD/DVD・ボールなど	6	「ゴルフボール」3、「CD」1、「折れたゴルフクラブ」2
	○衣類・オムツ・マスク・手袋など	4	「マスク」
	○ビニール傘(普通の傘、傘部品含む)		
	○金属製品	6	「スプレー缶」1、「御釜」1、「包丁」1、「ハンガー」2、「自転車スタンド」1
	○その他	6	「カード」3、「皿」1、「携帯電話」1、「木の板」1
<b>■ 粗大ごみ(不法投棄)</b>			
	○自転車・バイク・家具・その他	2	「三輪車」1、「釣り用具」1

◆調査年月日:2023年9月17日(日)

◆調査エリア:車橋～行幸橋～向ノ岡橋(約630m)

◆参加人数:6名

◆可燃系:2袋(45ℓ袋)／不燃系:2袋(45ℓ袋)

◆特記事項:

大栗川との合流地点から少し上流の「乞田川」での清掃は、大栗川と異なり、斜面が急だったり、川底がブロックで滑りやすかったり、急に深みがあったりと危険な箇所が多く、残暑も厳しく大変でした。

車橋～行幸橋間は草が多く、草に引っかかったレジ袋、土のう袋、発泡スチロールなどがありました。

乞田川では3面がコンクリートで固められており、最下流には草木もほぼなく、ごみが途中で引っかかる場所がないため、ペットボトルやビニール袋などの軽いプラスチックごみは、増水時にどんどん大栗川に流されてしまっていることがごみの内容からも推察されました。

コンクリートブロックの隙間には、錆びた「空き缶」が大量に引っかかっていて、回収には大変苦労しました。前回の乞田川清掃時のようにペットボトルが大量に見つかることはなく、それが長年の蓄積ごみだったことが分かりました。

三輪車、包丁、ゴルフクラブ、御釜などの金属ごみが多く目につき、ゴルフクラブは2本が揃って行幸橋の下に落ちていたので、橋の上から捨てられた可能性があります。

清掃活動前に想像していたよりもかなりごみ量は少なくホッとしたものの、マナーの問題を感じるごみに考えさせられた1日でした。